

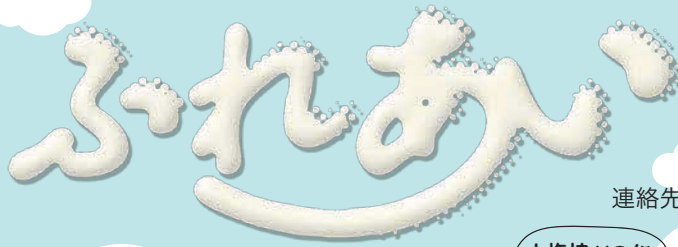


↑こちらからどうぞ

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、ふれあいを美浜のMと波でイメージしました。



人権協HPが
できました!

https://mihama-jinkenkyo.jp/

第1回町民人権講座

安全基地をつくる

おんぞう あやこ
[講師] 恩蔵 絢子 さん

5/27 sat.



5月27日(土)、脳科学者の恩蔵絢子さんをお招きし、「その人らしさとはなにか? ~認知症を脳科学する~」という演題でご講演いただきました。恩蔵さんは、65歳でアルツハイマー型認知症と診断された母親に娘として向き合うとともに、脳科学者として客観的に母の脳を分析し、認知症になった後の「その人らしさ」について研究してきました。

母親が認知症と診断された当初、得意な料理や買い物ができなくなった母は自分の知らない人になってしまうのではないかと不安を感じていたとおっしゃっていました。しかし、自分が生まれる前の母とはどんな人なのか、母らしさは認知症になると失われてしまうのかと疑問に感じたことをきっかけに、研究を始めたそうです。

恩蔵さんは認知症になった後の「その人らしさ」の研究を通して、認知症は時間が経つとその時何を言われたか覚えていないが、その時に感じた感情は、時間が経っても残っていること、体は体験したことを覚えているため新たに楽しみをつくることに気が付きました。言葉ではうまく出来事を表現することができなくても、体には楽しかった記憶が残っている。それならば母が好きだった音楽を

一緒に聞きに行つて楽しみを増やそうと考えたそうです。また、認知症は今までできていたことができなくなるなど現在の自己が脅かされ常に不安な状況であるため、何かあれば安心して帰ることができる場所、安全基地をつくるのが大切であるとおっしゃっていました。

その後、母との生活の中で認知症になっても「その人らしさ」はなくなり、出来事を覚えていなくても感情は残っていると答えを見つけ出したそうです。

講演を拝聴し、「何度も繰り返すことで記憶には残らなくても体は覚えている」という認知症の新たな面に気付くきっかけとなりました。認知症になってもできることは無限にあること、その人の可能性を広げるには周りのサポートが必要であることを改めて感じました。

講演を拝聴し、「何度も繰り返すことで記憶には残らなくても体は覚えている」という認知症の新たな面に気付くきっかけとなりました。認知症になってもできることは無限にあること、その人の可能性を広げるには周りのサポートが必要であることを改めて感じました。



自分は言葉を大切に生きているが、言葉だけで表されるものだけが本質ではない。逆に言葉が本質を見えなくさせてしまうときもあるということや、体は覚えているということが新鮮で良く理解でき、この後の人生、大切にしようと思った。

言葉で表すことが出来なくても本質的な所では覚えている。難しい脳の話でしたが独特の可愛い話しぶりで良く理解できました。新しい物事が覚えられないかもしれないが、昔のことはしっかり記憶している。基本的な所をしっかり覚えていたいし、身近なそういう方にも寄り添ってあげたいと思います。

「人の安全基地になる」「その人らしさや感情はあり、続く」前向きな言葉がたくさんあり、心強くなりました。

表出される言葉だけを見ては、本質を見失う。なるほどと思いました。その人らしさはずっとあるから、それを大切にして、これからも接していこうと思います。

第2回町民人権講座

「自由に自然体でいること」 [講師] DAIKIさん



6月27日に、日本人初の低身長症クランプダンサーのDAIKIさんをお迎えして、第2回町民人権講座が開催されました。

DAIKIさんは、「SOCIAL WARKEERZ」というダンスパフォーマンスをメインとした社会活動家団体に所属されており、2022年からは、その団体の代表を務められています。『Danceで福祉をデザインする』をテーマに掲げ、プロダンサー、福祉従事者、会社員などさまざまな顔を持つメンバーとともに、ダンスの舞台や講演、テレビ番組やCMの出演など、さまざまな活動を通じてメッセージを発信されています。



おしゃべりをするのが大好きと話すDAIKIさんは、ご自身の人生や病気に対する苦労や葛藤、また、その障がいに対する向き合い方などの体験談について、笑いも交えながらお話しされ、会場の皆さんはDAIKIさんのお話に終始聞き入っていました。

そのお話のなかで、DAIKIさんは障がいに対して「やってはいけない」ではなく「どう向き合うか」工夫をして創造すれば、誰もが共創した社会を創出することができる。我々のような障がい者のことを多くの人に知ってもらい、人の心にある障害をなくしていきたい。皆さんも障がい者と関わりを持つことに勇気を持ってほしい、というメッセージが強く印象に残りました。

最後は「SOCIAL WARKEERZ」5名のパフォーマーの皆さんによるダンスパフォーマンスが行われました。客席も巻き込んだ参加型のステージは圧巻で会場は大盛り上がりでした。



「人権講座」ではなく、普通に出会える世の中にしていきましょう。ありがとう。出会えてよかった。

平日仕事終わりなので悩みましたが、来て本当に良かったです。ラストの一緒にダンスタイム最高でした。みんなの笑顔がとても輝いていて印象的でした。

いろいろな人との出会いがその人の人生を左右するという事は、今の時代に減ってきていることだと感じた。コミュニケーションをとることが苦しい人が増えている今、今日の話をもっとたくさんの人にしていきたいし、たくさんの人に聞いてほしい。誰もが自由で自然体でいられる社会を作っていく一人になれたらと思った。

障がいや違いに対して、「やってはいけない」や「できない」ということではなく、どう向き合ったら変えていけるか、作り出していけるか、楽しんでいけるかという方に発想を転換していくことが大事だと学びました。

2023年度 町民人権講座

●会場はいずれも なびあす

Table with 6 columns: No., 日時, 演題, 講師, スタイル, テーマ. Rows include lectures on dementia, dance, movies, diversity, family, and tribal issues.

※新型コロナウイルスの影響で、延期・中止になる場合もございます。ご了承ください。

「人権のまち・美浜をめぐして」

人権協・部会紹介 (全7部会)



会長
河合 政志



副会長
兼田 和雄



副会長
森本 哲



副会長
大塩 友之

作品公募・意識調査部会



部会長 渡辺 直史

木谷 浩章	後藤 恵美子	高木 誠
高橋 修	高木 隼	畠中 芳洋
萩原 敦子	今安 沙都子	伊藤 弘昭

夏頃から、人権作品(短い手紙・絵・ポスター、写真)の公募を行い、入賞作品は人権作品集「ふれあい」として発行します。

人権擁護・啓発部会



部会長 高橋 一男

木野 隆	高木 健吾	知場 富雄
瀬戸 弘勇	上登野 栄子	高木 正
石丸 悦子	武田 晋	馬野 さおり
上道 沙織		

人権週間を中心に啓発活動を行います。推進委員相互の交流や研修を行います。

町民人権講座部会



部会長 高木 賢治

竹仲 敏春	中牟田 春子	脇田 幸子
浜野 裕介	武田 治和	浜野 真太郎
渡邊 理佳	竹内 洋子	

年間6回の講座を開催し、広く町民に人権に関する学習機会を提供します。

広報部会



部会長 西野 泰弘

川畑 成央	山野 泰孝	中川 貴寛
芝井 太志	南 宥希	橋本 紳
大野 康弘	渡辺 純資	

年3回広報「ふれあい」を発行し、人権に関する情報や人権協などの活動に関する情報を提供します。

推進団体学習部会



部会長 寺田 真一

塚原 仁朗	桑原 正樹	幸丈 佑馬
田邊 拓登	田辺 桂子	中瀬 豪規
和多田 裕太	大同 浩子	武田 達也
山本 由加		

集落・企業・団体等の自主的な学習会の開催を支援します。

啓発資料・人権協コーナー部会



部会長 三好 万里子

森井 みどり	福嶋 智恵美	上道 正二
山口 有一	池田 直美	金田 桂汰
田中 優太郎	田邊 雄	

人権について、身近に考えていただけるような啓発資料「ふれあい」を発行します。人権週間中に、人権協コーナーを開設します。

人権のつどい部会



部会長 木子 雅之

加藤 美千代	中嶋 さき子	河合 美恵子
野原 佐智夫	伊藤 善幸	玉井 なおみ
本間 博美	一瀬 憲幸	今安 泰貴
幸光 里美	西村 康政	

人権週間の意義を踏まえ、12/9(土)に「人権のつどい2023」を開催します。

一年間県の施設で農業を学び、県外にも研修に行った。正直私は恵まれていたと思う。いい人に出会えたし、多くの学びの場も提供してもらえた。

今までも結局は自分で決めた選択の中で生きてはきたが、今回は何が違ったのだろうか？ なんとというか仕事に向かう体に入力が入る。今までだつて仕事には真摯に取り組んできたし、楽しんできた。だけどこんなにも充実はしていなかった。自分の育てた作物をおいしかったと喜んでくれる姿が、まるで自分が認められた気がしたまらなく嬉しかった。

この町で生きていくというなんでもない思いがいつの間にか、この町で認められたいという夢になってきたことに気が付いた。そしてその夢に近づくことがこんなにも自分に力を与えてくれるものだと知った。

今はまだ自分のことで手一杯な半人前だが、たくさんの人に認められた時、一人前になった時、今の夢には区切りがつく。そして自分の育てた作物がきっかけで多くの人に美浜町を知ってもらおう。いつかそれが次の夢になっていくだろう。

人権コラム

源

「執筆」今安 亮介



私にはずっと夢がなかった。なにかこれにやりたいとか、これがやりたいとかさういった漠然としたものすらない。高校や大学で自分の将来の夢を話す友人を羨ましく思っていた。なんとなく進学し、大学は中退、転職も経験し、なんとなく過ごしていた。ただ一つこの町で生きていくことだけは決めて。

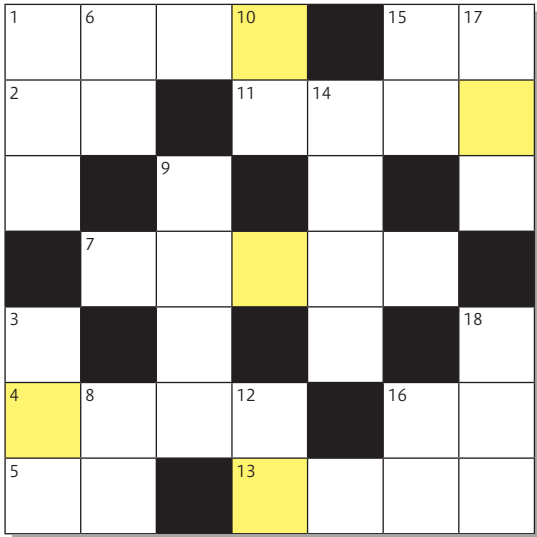
私はこの町が好きだ。海があり、山があり、湖があり、そして何もないこの町が好きだ。

だから、美浜がこれから農業に力を入れていくという話を聞いた時、これだと思った。美浜で生きていくのであれば美浜で働きたいと思っていたし、また地域貢献にも繋がると考えたからだ。



「ふれあい」第79号をお読みにになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介いたします。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

- ◆人権作品集「ふれあい」を読ませていただきました。思いやり、感謝の心があふれており、心があたたかくなりました。いくつになっても、この大切な気持ちを持ち続けたいと思います。(T.Hさん)
- ◆「ふれあい79号」の「人権コラム」(田辺憲虎さんの記事)はとても感動させられました。誰もがそれぞれの夢や目標をかかげ、それに向かって生きていますが、夢や目標はすべてかなえられるものではありません。しかし、それは誰もが経験することです。たとえ夢や目標が達成されなくてもあきらめずに生き抜くことの大切さを教えてくれています。子供達にも大きなプレゼントとなるすばらしいコラムを有難うございました。(M.Jさん)
- ◆ふれあいは心あたたまる記事が多いのでいつも楽しみにしています。人権クロスワードが好きです。年をとって人権のつどい等見に行けません。ふれあいを見て感動しています。義足でもダンスで人を感動させる事が出来るのはとてもすばらしいことです。(S.Tさん)



■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかをお願いします)

● 答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 人権協事務局 (生涯学習センターなびあす内)
※ FAX(0770-32-1222)
E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)



感想やご意見もお願いします。

- 〆切は、令和5年9月15日(金)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「たからもの」でした。たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は25名でした。

今回の当選者は 田辺 治子さん 宇佐美 葉子さん
武藤 実学さん 高木 エミ子さん 山口 則和さん
以上の皆さんです。おめでとうございます!

人権クロスワードパズル 黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



タテのカギ

1. 左に曲がること。
3. 約1.8リットルを表す容積の単位のこと。
6. 「後ろ」の反対は「前」。では「後」の反対は?
8. 家族が普段いる部屋のこと。
9. 水の流れを利用して羽根車を回転させて動力を得る装置のこと。
10. 「鱧」と書く、全長1mほどの魚。
12. 1000分の1を表す接頭語。
14. 相撲の力士が食べる料理。
15. 白と黒に分かれて、相手よりも多くの領域を囲むことを目的としたボードゲーム。
16. 約0.18リットルを表す容積の単位のこと。
17. 石見銀山や出雲大社で有名な中国地方の県。
18. ひものように細長い形をした土の中の生き物。

ヨコのカギ

1. 童謡「たなばたさま」の歌詞、「○○○○さらさら」
2. 掛け算の答えのこと。
4. 日が暮れたばかりの頃の薄暗さのこと。
5. 十二支の7番目。方角としては南を指します。
7. 潜水すること。水泳の飛び込み競技のこと。また、単に飛び込むこと。
11. 将棋で、相手から取って自分の手もとに持ち、いつでも使用できる駒のこと。
13. 腕時計などのぜんまいを巻くためのつまみのこと。
15. 『タテ15』で使用するもの。(一般的には黒のみ。白は蛤の貝殻を使用)
16. 不要になり捨てられるもの。

編集後記

◆80号という切りの良い号数となりました。人権協発足から28年目を迎えています。今年の第1回の編集会議でこの80号という数字を見たときに、森本副会長さんが、「この広報ふれあいは人権協の一つの大きな財産ですね。」と言われました。一号一号の中に、人権講座・各部会の活動・人権啓発・コラム・意識調査・作品募集・みなさんの声・人権クロスワードなどを盛り込みながら80号まで来たことは、単なる繰り返しではなく、地層・年縞のように積み上がった歴史的な財産なのだと改めてその責任を感じた次第です。◆「一人の百歩より百人の一步」という言葉があります。どう用いるかはいろいろあるよ

うですが、人権意識の向上や差別の解消にはぴったりと当てはまる大切にしたい言葉だと感じます。一人がいくらがんばってもその達成は難しい。声を上げるのがたとえ少数だとしても、それが多くの人に浸透してみんなが一步を踏み出す。それが大きな一步となって社会が動き出すということがあります。◆この広報ふれあいも、これまで携わってこられた方々の一步一步が積み重なって80歩まで歩んできました。この歩みをさらに進めて、100人の一步、500人の一步、1000人の一步によって、差別のない、心からふれあえる社会を築いていけると願ってやみません。今年も人権協の活動へのご参加、ご支援、ご協力をよろしく願いいたします。(西)